

「貸切・路線バス」～関越事故をきっかけに～

利用者目線で新たな活躍シーンを考えよう（案）

第2回（観光・足の確保）バス/ LRT の役割

欧州の事例がメディアで紹介され、注目される「LRT・BRT」。路面電車、LRT、BTR を走らせれば、観光客を呼び込めるのか？まちは活性化するのか？従来の「貸切・路線バス」では補えないのか？

「バス」「BRT」「路面電車」「LRT」のそれぞれの利点と欠点、役割について、交通政策有識者・全国バスマップサミット実行委員の意見を深く交じ合わせ、観光客誘致とまちの足の確保のための「貸切・路線バス」の新たな可能性を見出します。

※メッセージ

バス事業の将来を真剣に考えておられる事業従事者や研究者のみなさま。

観光客誘致にご活躍のみなさま。

生活の中でこんなバスがあれば助かるのにとっておられる利用者のみなさま。

みんなで一緒に集まって、後世に残せる“バス”を用いたまちの活性化と交通弱者の削減について考えませんか？

「日本の未来を真剣に考える仲間たち集合！」

「バスの未来を考える会」ミッション



バスの未来を考える会

ミッション

交通弱者を減らし、持続可能な社会の実現に向け、これまで聞く機会の少なかった利用者ニーズを“聞く”“知る”“意見を交わす”を大切にし、新たなバスの活躍方法の発見の場にする

メンバー

- ・大学
- ・バス
- ・国、自治体
- ・新聞社

活動

勉強会の定期開催

※第1回目は「高速ツアー・路線・貸切バス」について徹底討論

■日時

11月18日（日）午前10時から（約2時間を予定）

■プログラム

第1部 パネルディスカッション 第2部 フリーディスカッション（利用者の意見を中心に取り上げる）

■場所

場所：大阪大学中之島センター 406号室
〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-53 TEL 06-6444-2100
阪神・JR福島駅から南へ徒歩10分

■会費

1000円
子ども・学生無料（子ども連れの参加、大歓迎！）

■コーディネーター



森栗茂一（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 教授）

バスの事業をはじめとする交通と行政の両面を熟知したまちづくりのスペシャリスト。全国の自治体から引っ張りだこだ。また、独創的かつ野性的センスで問題の真髄を突いた「パネルディスカッション」「全員参加型のフリーディスカッション」は類似例がない。

「今回はどのようにまとめられるのか？」それだけでも第2回目の会に参加する価値あり！

■パネラー

全国バスマップサミット実行委員会

バスは複雑なため住民や観光客にとって、分かりにくい存在。わかりやすくマップにすれば、利用者の増加、観光客がこれまで行けなかった、まちの魅力的なところへ、足を運べるのではないかと？

「全国バスマップサミット」は、バスマップを作成した市民団体等で構成される「全国バスマップサミット実行委員会」の主催により、2003年に岡山で産声をあげた後、おおよそ年1回開催しています。

毎回全国から約100人前後が参加し、交通事業者でも行政機関でもない市民の手によって、マップ作成のノウハウ交換をはじめ、公共交通の未来を見据えた熱い議論が交わされてきました。



岡将男

（NPO法人 公共の交通ラクダ（RACDA）理事長）

岡山市の市民グループ「路面電車と未来を考える会・岡山（RACDA）」会長、全国路面電車ネットワーク運営委員長でもある。RACDAにいたる最初は、中学2年からはじめたNゲージ鉄道模型。岡山市の模型を作って公共交通を考えている。バスマップ名は「ぼっけえ便利なバスマップ」「のんべい便利マップ」



菅井直也

（広島BRT 研究会代表 広島文教女子大学教授）

人間福祉学科教授。地域福祉が専門。広島BRT研究会は、広島市を中心とした路面電車・LRTとして活動を報じる目的にて1997年にスタートした「路面電車を考え

る館」が母体。広島LRT研究会名で、バスマップ「バスの超マップ」を配布。広島BRT研究会が同研究会の事業・活動を継承した。



谷田貝 哲

（バスマップ沖縄 主宰）

沖縄はクルマ社会であまりにもバスが過小評価されていることに気付く。沖縄県内のバス利用の促進に取り組む任意団体を立ち上げ、バスの利用情報案内ツールバスマップ沖縄（Web版及び紙版）の作成、配布活動を展開中だ。バスマップ名は「バスマップ沖縄」

都市交通計画専門家

谷口守

（筑波大学大学院システム情報工学研究科社会システム・マネジメント 教授）

「計画」に関する課題を幅広く対象としている。特に将来に発生すると考えられる新しい課題（たとえば、人口減少社会の中でのコンパクトな都市づくり、環境容量と都市活動のバランス、ソーシャル・キャピタルの育成、サイバースペースマネジメント他）に積極的に取り組んでいる。

■実行委員紹介



森栗茂一（大阪大学コミュニケーションデザインセンター 教授）

専門は、都市民俗学、コミュニティコミュニケーション。
民俗学を出発点としつつ、各地で住民協働型交通まちづくりに関わる（土木工学の領域以外の専門家）。観光ツーリズム、復興住宅コミュニティづくり、住民の協働による合意形成を通して、全国を寅さんのように渡り歩いている。



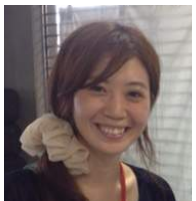
谷口守弘（京都府バス協会 貸切委員長）

貸切バスとタクシーを京都で経営する明星自動車（株）代表取締役社長。西日本のバス会社仲間からは、「貸切バスは谷口さんに任しといたら大丈夫や！」と言われる人望の厚いひと。「元気がないバス事業をなんとかしないと！」と先頭に立って奮闘中。



澤井俊（国土交通省近畿運輸局 自動車交通部長）

単なる規制強化では、貸切・路線バスにおける問題点は解決しない。利用者ニーズに沿った新たなバスのあり方の発掘に向けて日夜取り組む。モットーは「原点回帰！」公共交通を必要とする方の声に耳を傾け、公共交通のこれからを創造中。



楠田悦子（事務局）

国内初のモビリティでQOLを追究するビジネス情報誌「LIGARE」を発行する（株）自動車新聞社の記者・海外特派員。「誰かが困っている」と聞くとほっとけない性格。“良い日本社会作りを！”の熱い思いと荒削りな性格を理解して下さる皆さんに感謝。

お申込み

・氏名

・住所 〒

・E-mail

・TEL

※会のアンケート集計結果をご送信いたします。

・FAX

送付先（FAX）050-3737-6662/（E-mail）info@j-np.com

〈お問合せ〉バスの未来を考える会事務局（株自動車新聞社内）

（TEL）078-3274-1288 楠田悦子